

伝統文化体験 ～華道のススメ～

外国語学部 国際文化交流学科 3年 ザルーク・アーミナ

わたしたち人文学会に所属する学生部会、SDGsという国連の課題を取り入れて主な活動をしています。その中で、今回10月7日横浜キャンパスにて、22号館3階和室で人文学会学生部会と華道のサークルがコラボして留学生と在学生を含む14名の学生と華道の体験をしました。

まず、SDGsとは何か。持続可能な開発目標(SDGs)、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。17ゴールの中の10こめのゴール「ヒトや国の不平等をなくそう」というゴールです。わたしたち学生部会はその中で考えたのは異文化

理解です。異文化に触れてもどこまで理解できるかがわかりません。なので、体験することを計画しました。そのためわたしたち自ら一回経験したうえでこの案に決意しました。

次に日本の伝統文化である華道の歴史をみたい。華道のはじまりは仏教伝来にさかのぼり、現代でも仏事などで用いられる供花くげが原点であるというのが有力な説です。今広く知られている華道が大成したのは室町時代中期、京都の六角堂(頂法寺)の僧侶の供花からであると伝えられています。六角堂にはその建立のきつかけとなった池があり、その池のほとりに建てられたことから池坊と呼ばれ、あの有名な華道の流派「池坊」に繋がっています。当初の華道は神仏に供えられているものという事で型が細かく定められているものでしたが、時代とともに自由に表現されるもの、見る人を楽しませるものとして変化していきます。その大きな契機の一つとして、明治時代に西洋の文化や西洋由来の草花が輸入されてきた文明開化が挙げられます。これによりそれまでは壺や瓶に生けるだけだったのが水盤という大皿

のような器を用いる方法が考案され、西洋の花材を取り入れた生け方が産み出されたというものです。このように時流に合わせて柔軟に変化を続けながら、華道という芸術は現代においても発展を続けています。現在では、「IKEBANA」として海外でも愛されるようになりました。

ここから実際わたしたち学生部会の生徒と留学生が実際の体験を述べます。まず、華道サークルの流派です。梶井ノ宮御流です。当流のいけばなは、宮門跡として知られる京都・大原三千院を源としています。三千院は、平安時代に僧最澄(さいしやう)によつて開設された天台宗の院ですが、堀川天皇の第二皇子最雲法親王の入山以後、皇族が住侍となりました。三千院には創建以来、本尊に供える三具足(香炉・瓶・燭台)のしつらいが伝承されています。瓶には「たて花」(立華以前のスタイル)が立てられますが、仏前の供花であるために院内にとどめられています。このほかとは別に、院内の居住空間には「抛入花」(投げ入花)がいけられ、四季の風情が賞玩されてきました。



華道の体験をしているところ

当流では江戸期以来の継承されているスタイルを古典花、明治時代以降から継承されているスタイルを現代花と位置づけております。さらに古典花は古典花（生花）と先代二十世が新たに加えた現代に対応する近代生花の二つ、現代花は自由花に代表される投入花と盛花の二つを指導しております。

体験に入ります。大学の和室にて体験しました。サークル委員がみんな場所を皿の上に剣山をのせ針が隠れるところまでみずを入れました。そのあとみんなで座ってから始まりました。本家の家元藤原素朝先生が指導をしてくれました。先生が自己紹介をし、丁寧に最初にステップごとにお花

の手法を見せ、サークル学生は日本語が通じない留学生に通訳をしました。実際体験に入ると、最初の枝を挿すステップがみんな早くて同じようなところに挿しましたが、次の花を挿すところで一人一人花の大きさが違ったり、花を挿すところが違ったり、自分たちのセンスと藤原先生の指導に基づき素敵なお花ができました。

出来上がった作品は一つひとつが違っていて素晴らしいかったです！短い時間で体験したのですが、1秒1秒みんな真剣に必死で体験してくれました。普段あんまり交流できない留学生とも言葉を越えたコミュニケーションが出来てみんなでもとても楽しい有意義な時間でした。藤原先生、忙しい予定



の中でわざわざ時間を作ってくださいありがとうございます。
また、今後もこのようにSDGsを取り組んだ活動をしていきたいです。